

(有)柏みらい農場代表取締役・(株)アグリプラス代表取締役

染谷 茂

# 農薬事故で表面化した直売所リスク 信頼を取り戻すためには何が必要か

今や全国に1万カ所以上あるといわれる農産物直売所。

「生産者の顔が見える」売り場として人気は高まるばかりだが、安全面において、人的・構造的なリスクを抱えているのも事実である。

千葉県の人気店「かしわで」で発生した登録外農薬の残留事故は、

すべての直売所に対して、リスク管理のあり方を問いかけることになった。

「かしわで」を運営する(株)アグリプラスの染谷茂・代表取締役に、

事故発生の経緯と、顧客の信頼を取り戻すための決意を聞いた。

## 登録外農薬の検出により 直売所の営業を停止

昆吉則（本誌編集長） 染谷さんは

千葉県柏市で(有)柏みらい農場を経営する一方で、2004年より地元農産物の集荷・販売を行なう(株)アグリプラスを立ち上げ、「かしわで」という直売所をオープンさせました。200名を超える生産者の農産物を取り扱い、連日多くの利用客で賑わ

「チダチオン」が検出されました。そ

れをきっかけに自主検査を行なった

ところ、ほかの生産者のシユンギク

からも別の登録外農薬が検出されま

した。

昆 出荷したのはどんな方ですか。

染谷 主に直売所向けの農産物を

作っている年配の方です。最初に検

出されたのは花農家で、散布機の中

に花用の薬剤が残っており、その後

に使った作物についてしまいました。

昆 それで今回の事故に対して、役

所からはどんな指示があったので

しょう。

染谷 商品を回収し、店内に事故の

内容を告示しなさいと。

昆 同時にメディアにも報道されま

した。売上に対する影響は？

染谷 事故発生直後に10日間ほど営

業を自粛したこともあり、昨年度に

比べてやはり落ちていますね。

昆 問題のシユンギクを出荷した方

には、どんな対応をとられたので

しょう。

染谷 出荷停止です。

昆 ペナルティーがあるということ

を、ほかの農家にも理解してもらわ

ないといけませんからね。

染谷 ただ、これは事故を起こした

者だけの問題ではなくて、すべての

農家に可能性があることだと思っ

ています。

## 農薬事故が発生する 人的・構造的な原因

昆 今回の事故は、日本中の農産物

直売所が抱える構造的な問題を浮き

彫りにしたと感じています。

染谷 少量多品目栽培ならではの問

題が大きいですね。まずひとつは農薬の濃度です。専業農家が市場向けに大量出荷する場合は、同じ農薬を大量に作って、使い切って終わりです。ところが直売所向けの野菜は、一枚の圃場で複数の品目を作付けているのが普通です。それに対して、例えば1000〜2000倍の農薬を10ℓだけ作るとなると、原液は1ccに満たないこともある。年配の人たちがきちんと1ccを計って薬剤タンクに入れて作るかというと、現実には難しいものがありますね。

**昆** 隣の野菜にかかってしまうドリフト問題も起こりやすいでしょう。

**染谷** ええ。今回の原因のひとつもドリフトでした。風がないと思って撒いていても、いきなり風が吹いて隣の作物に飛んでしまうと、登録外の農薬を使ったことになってしまいます。

**昆** 農薬をいかに慎重かつ適切に扱うかという意識が問われます。

**染谷** そうですね。出荷してくる生産者には戦前もしくは終戦直後生まれの世代が多いのですが、農薬万能時代を経験しているせいか、薬剤を慎重に扱う意識が高いとは言えません。あんなものは手でかきまぜていたという人がたくさんいるんです。これまでも大丈夫だったから問題ないだろうと。残念ながらそういう人

たちは、現在の農薬取締法に対応するのが難しい。登録がとれているか、希釈倍率はどうか、収穫前日数の制限はあるのか、そういった条件を理解した上で農薬を使用し、なおかつ記録も残す。その指導を徹底すべきだったと反省しています。

**昆** 経営者としての責任ですね。

**染谷** はい。売上が年を追うごとに伸びていく反面で、生産者に対する指導が疎かになっていました。これからは会社として管理を徹底しなければならぬと痛感しています。

### 信頼をいかに取り戻すか 再起にかける想い

**昆** しばらく営業を自粛したということですが、その間にどんな改善策に取り組んだのでしょうか。

**染谷** まず、すべての農家を集めて研修会を開きました。そして改めて農産物の栽培履歴を提出してもらい、履歴の記載が不十分なものは弾いていきました。残ったものについては圃場確認です。畑の様子を視察すると同時に、本人の農薬に対する意識、農薬の保管状況などを確認し、この農家は大丈夫だと判断したら、その農家の作物について残留農薬検査を実施しました。そこまでチェックして問題のなかった商品を集め、

## 染谷 茂

### ■プロフィール（そめや・しげる）

1949年千葉県柏市生まれ。68年に高校を卒業後就農。一度会社勤めに転向したが、約3年の工場勤務の後、再び農業の世界に戻る。2003年、利根川沿いに広がるゴルフ場予定地の圃場開発を引き受け、(有)柏みらい農場を発足させると同時に代表取締役就任。100haを超える圃場で大規模な土地利用型農業を展開し、水稻、麦、大豆、ジャガイモ等を生産する。04年、生産地であると同時に消費地でもある柏の立地を活かし、有志の生産者と共に農産物直売所「かしわで」をオープン。同店を運営する株式会社アグリプラスの代表取締役も務める。

<http://www.kasiwade.com/>



営業を再開しました。  
 昆 研修会ではどんなことをやったのですか？

染谷 保健所と、県の安全農業推進課の農業担当者を引き、農業の取り扱いについて講習を受けました。こうした研修会はこれからも繰り返して行なっていくと考えています。人はどうしても忘れてしまうものですから、一人ひとりの意識が薄くなってきた時に改めてやる。そうでないと、少しくらいいいだろうという油断が生まれる恐れがあります。

昆 それは大切なことですね。以前にタケノコの品質でクレームが出て、茨城県の篤農家である高松求氏のところに研修に行ったら、品質が上がり、農家の意識や意欲も変わったという話をお聞きしました。あれと同じことが起きるのではないかという気がします。

染谷 タケノコといえば放っておいた竹山からでも勝手に生えてきますが、高松氏はあくまで「栽培」する感覚で竹山を管理しています。何でもいから売ってしまえという発想ではなく、自分が責任を持って育てた作物を、相手に喜んで買っていただけかどうか。高松氏のところに行くと、タケノコの出荷者がそれに気付いてくれたんです。翌シーズンはタケノコに対するクレームがゼロ

になりました。

昆 意識が変わったわけですね。

染谷 ええ。その後はタケノコに限らず、品目ごとに出荷者が集まって情報交換するようになりました。

昆 技術知識の問題だけではなく、世の中に認められるに足る供給者としてどうあるべきかを、出荷農家に理解していただくことは大切です。

染谷 食べてくれる消費者の立場になつて、自分たちが変わらなくてはいけないわけですね。

昆 そういうことです。今ではまだ中国の農産物は危険だというイメージがあるでしょう。でも最近の中国で日本に供給しているような農場は、厳格な工程管理が進んでいます。もはや日本の農産物だから安全だというのは幻想に過ぎないんですよ。心配なのは、日本産は中国産より安全だという消費者の誤解に安住してしまうことです。それについては、個々の出荷者に対して、染谷さんのような経営者が意識教育を徹底する必要があります。

染谷 実は市の関係者には「かしわでは素人を巻き込みすぎている」と指摘されたんですよ。店を立ち上げた時は、柏市の農業が10年先、20年先も元気に続けられるようにとの思いから、意欲さえあれば年配だろうが若者だろうが、ふるいにかけずに

集まってもらった経緯があります。これからは、ある程度の基準を設けて出荷者をチェックする必要があると思っています。

昆 ただ、規模の大小ではなく、社会の変化やお客様の存在に気付く人が経営者なのだと私は思うんです。そういう意味では、直売所でお客様に選ばれて喜びを感じているおばあちゃんも立派な経営者なんです。素人を入れたからいけないのではなく、素人であろうとも意識を高めていける環境を作ることが重要だと思います。そのためひとつの手法がGAPのようなシステムでしょう。

染谷 たしかにGAPのような工程管理基準は大切です。でも、うちに出荷する年配の人たちの現状を考えると、かしわでに合ったシステムを作るのがいいのではないのかという気もします。

昆 取り組みやすいからというのは、発展段階で必要かもしれないですが、ハードルは厳しくしたほうがいいですよ。自分たちのやり方に合わせてしまうと、そこに甘えが生まれますから。検査をして残留農薬があるかどうかという結果の問題ではなく、第三者が認める適切な工程管理を行なうことが大切なんです。例えばトヨタの自動車とインド製の自動車とでは、製造工程がしっかり管理

されているからこそトヨタの自動車が信頼されるわけです。真面目に苦労して作ったとか関係ないんですよ。お客様に選ばれるためには当たり前のことなんです。まずは店長さんや幹部の方だけでも、JGAPの指導員研修を受けることを検討されてみてはいかがでしょう。

染谷 そうですね。これまで6年半かけて積み上げてきた信頼がゼロになりましたが、初心に帰り、今までできていなかったことをしっかりとやって、お客様の信頼を取り戻していくと思います。

昆 今回のような事故が起きるリスクは、日本中の農産物直売所が抱えています。失礼な言い方かもしれませんが、たまたま「かしわで」がそのリスクに当たってしまった。たしかに不幸な事故ではありますが、この不幸こそが発展のチャンスです。反省すべき点は反省し、関係者が意識を改めることができれば、むしろ将来の信頼につながることでしよう。新しい取り組みを始めるチャンスを得ることができて、むしろ幸運だったと思える日が来ることを期待しています。今日も実に多くのお客様が来店しているではありませんか。こうした顧客の共感こそが染谷さんを伸ばしてくれると思います。本日はありがとうございます。